

インターバンクの声（2015 年 1 月 13 日）

新年三が日と週末が明けた 5 日に 120 円台を付けたのを最後に、ドル円相場は米雇用統計発表後も昨日も 119 円台後半まではドルが買われるものの徐々に上値が切り下って来ている。ドルが値下がりする場面では、どうにか 118 円台を守っているが、そろそろ 118 円台キープも怪しくなっている雰囲気だ。暫く前から少し変化している傾向にあったが、米雇用統計の注目点が失業率や非農業部門雇用者数自体よりも賃金の改善に移っており、先週の金曜日の結果は、まさにその時間当たりの賃金の低下が示されてしまいいツボに嵌ってしまった格好だ。それでも市場は米経済が依然底堅い状況にあるとの見方が根強い一方で、一部は米連邦準備理事会（FRB）が年内に利上げに動くことはないのではとの声も出始めており、少し先を見据えた動きにもドル買いに躊躇感が現れ始めているようだ。さらに、下げ止まり感が出始めていた原油価格が再び値下がりしていることで、ドルに対する悪影響も懸念され始めている。少々ドルが跳ねる場面があればドル売りを狙ってみたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。